

プーラ大学における日本語教育

—学部設立からの3年間の活動および修士課程設立にむけて—

イレーナ・スルダノヴィッチ

ユライ・ドブリラ大学プーラ

isrdanovic@unipu.hr

【要旨】

本論文では、まず 2015 年にプーラ大学人文学部で設立したクロアチア初の日本語・日本文化学位プログラムの特徴、日本などの大学と締結した交流協定、学生たちの主な成果を紹介する。そして、本大学で開催された国際学会、作成された論文集、書籍、クロアチア語初の初級日本語教科書などの主な業績に加え、言語学習者オンライン辞書作成のパイロットプロジェクトなど3年間で行われた様々な活動について述べる。最後に、現在作成している修士課程のプログラムの概要について説明する。

1. はじめに

クロアチアの隣国には既に日本語教育の数十年の伝統を持っている大学がいくつかある。セルビアのベオグラード大学言語学部は日本学科設立 40 周年、スロベニアのリュブリャナ大学人文学部は日本学科設立 20 周年をそれぞれ数年前迎えた。クロアチアでは、クロアチア中で少数ながら熱心な日本語教師などの活動が行われ、また、ザグレブ大学哲学部は、10 年ほどの間に非学位日本学プログラムを実施してきたが、クロアチアの教育省が認めている学位取得可能な日本語プログラムが 4 年前までなかった。2015 年 9 月に、プーラ市にある国立大学としてのユライ・ドブリラ大学プーラ（プーラ大学）人文学部において、日本語・日本文化学部プログラムがクロアチア初めての学位取得可能な日本語プログラムとして設立された。

クロアチアのイストラ半島に位置しているプーラ市では、前世紀の中頃から教育学および経済学の教育が一番よく行われてきた。現時点プーラ大学では、経済・観光学部、保育・教育学部、人文学部、音楽アカデミー、学際・イタリア語・文化研究学部、情報通信学部、自然科学研究科、技術研究科、社会主義文化・歴史研究センター、教育能力センターなどがある。本大学の主な特徴は、統合されている学部から構成されていることである。最近のストラテジーは、特に理系および労働市場に求められている分野に力を入れていることである。

本論文では、日本語・日本文化学部プログラムの概要と特徴、他の大学との交流、設立から3年間で行われた様々な活動、学生の成果および今後の修士課程設置への動きなどについて述べる。

2. プーラ大学の日本語・日本文化学部プログラム

2. 1 主な特徴

プーラ大学人文学部において、日本語・日本文化学部プログラムが 2015 年に設立された。日本語学科に入学した学生はシングルメジャーとして日本語・日本文化学部プログラムだけにするか、それとも以下のダブルメジャーの組み合わせのうち一つにするかの選択ができる。ダブルメジャーは、イタリア語・文学部、歴史学部、クロアチア語・文学部、ラテン語・ラテン文学部、また新しくできた英語学部、考古学部

との組み合わせになっている。ボローニャプログラムの仕組みを取り入れ、卒業論文の提出含め、3年間いわゆる6学期の学部プログラムとなり、最小数クレジットは180ECTS単位（ダブルメジャーの場合日本語・日本文化の部分が90ECTS単位）となっている。3年間で予想される成果・能力は、中上級の話し言葉と書き言葉の日本語能力（B2/CEFR）に達することおよび日本文化を学習し、ヨーロッパおよびアジアの枠組みの中で比較分析することである。

このプログラムはクロアチアではじめての学位取得可能な日本語コースということで、クロアチア中から学生が集まっている。クロアチアの主要産業である観光の必要性を考慮に入れ、増加する日本人観光客に対応できる観光分野における人材を育成するため、一般日本語以外に1年目から観光日本語の学習もできる。様々なアクティビティを手配したり、学生たちと一緒に参加させたりしながら、地域社会との関係を重視しており、また、国際交流を大切に、日本の大学の学部・研究科と交流協定を結んで、留学および実習活動などを行っている。このような活動を通して、学生たちを社会とつなげ、ハイクオリティの学習を目指している。日本語の母語話者と継続的に接触ができること、日本へ留学ができること、将来の就職に向けて企業・大学・高校などの機関で実習を受けながら育成ができることを特徴にしている。

2. 2 大学間の交流

スロベニアのリュブリャーナ大学文学部アジア研究科との交流協定は日本語プログラムを設立する前に締結し、集中講義などを通して非常勤の先生方の交流が積極的に行われてきた。東北大学大学院文学研究科・日本語教育学との交流協定準備が2015年の「グローバル化する世界における日本語・日本学の研究拠点形成を目指す国際共同研究プロジェクト」のシンポジウムで始まり、プーラ大学の日本語プログラムの設立に大きく貢献できた。2大学間の学生交流が初めて2018年に実現され、プーラ大学の学生が東北大学に1年間留学し、東北大学の学生をプーラ大学に研究実習として受け入れた。その交流協定で、毎年最大2名のプーラ大学日本語学生を東北大学の留学プログラムに送ることができる。さらに、広島大学、筑波大学、福岡女子大学との交流を含め、4年目に日本語教育の長期・短期研修をプーラ大学で実現することができた。2018年9月17日に筑波大学の先生方がプーラ大学を訪問し、交流協定締結をし、今年度から日本語実習を受け入れるほか、プーラ大学の学生は筑波大学に最大毎年2名が留学できるようになっている。

本研究科は、Erasmus+およびCeepusのプログラムにも力を入れており、Erasmus+のプログラムでスロベニアのリュブリャーナ大学、セルビアのベオグラード大学、日本の広島大学との先生・学生のモビリティができています。Ceepusプログラムでは、東南ヨーロッパにおける韓国学研究・韓国語教育のネットワークに拡大し、今年度初めて韓国学の先生を受け入れるようになり、今後の交流では先生・学生のモビリティを更に増加する予定である。

2. 3 学生達の主な成果

2015年から3年間半で、4年目の入学期間を含め、主な学生の成果としては、以下のようなことがあげられる。学生1名は文部科学省の奨学金を受け、名古屋大学で1年間の留学プログラムに参加した。その後、同じ学生が修士課程入学のため文部科学省の奨学金を受け、多摩美術大学に留学する。その他学部最優秀学生として（成績5.00と取得単位数で）日本学科の学生1名が学長表彰を受賞した。

東北大学との交流でシーボルトプログラムに1名が1年間留学している。また、東北大学DeepBridgeプログラムで1名が今度留学する。また筑波大学の交流では、1・2名が今年度留学する予定である。Erasmus+のプロジェクトで3名の学生がスロベニアのリュブリャーナ大学に1年間留学ができ、今年2名の日本

へのモビリティの可能性があるので、おそらく広島大学および東北大学に留学できるチャンスが高い。さらに、イギリスの日本語・日本学短期研修プログラムに1名が奨学金を受け参加した。大使館・ザグレブ大学哲学部主催スピーチコンテストには、既に2年目の参加となり多くの学生たちが参加し、大使賞1名(2017年)、審査委員賞1名(2018年)、個人パフォーマンス部門優勝1名(2018年)を受賞している。また、スピーチコンテストの成果と関連して、学生1名は成績優秀者短期日本研修を受けた(2017年)。

その上、次章に紹介するプーラ大学で開催された国際シンポジウムでは多くの学生たちが自主的に参加し、様々なアクティビティをサポートし、学生1名が自分の研究について発表した。なお、以下に述べるクロアチア初の日本語教科書の作成に15名以上の学生、辞書作成に20名以上の学生が参加した。3名の学生は既に本大学の学科で日本語教育の実習を受けている。2名は韓国語の教育実習を行い、4名は今年度観光会社での企業実習に行く予定である。2年間、学生たちは日本語母語話者の実習生・先生たちと共に母校訪問に行き、高校生向けの日本語ワークショップを実施した。この活動でクロアチア国内高校13校17クラスにおける520名の高校生の参加が実現できた。(2017-2018年)。5名の日本語学生が先生方と一緒に「Monte Librić」という子供向けのブックフェアで小学生向け日本語教育ワークショップを行った。「書道」「アニメについての議論」「アイドルについての発表」、「研究者の夜」他の様々な課外授業のアクティビティには多くの学生が活発に参加した。

このようなアクティビティを通して、学生の今後の就職のためにも役に立つ様々な技術、能力の育成ができ、実際の社会と関連した教育がある程度できたと考えられる。

3. 日本語・日本文化プログラムの様々な活動

3.1 研究会および論文集

最初のプーラ大学日本学シンポジウム「東南ヨーロッパにおける日本語・日本文化教育についての国際シンポジウム」(International Symposium on Japanese Language and Culture Education in Southeastern Europe)は2017年1月13日に開催された。その目的は、2015年秋、プーラ大学人文学部に新規設立された日本語と日本文化の学部学位プログラムを記念し、この地域の研究・教育者間でより幅広い協力関係を構築すること、また新規プログラムで学習している学生のため、当該分野の既存プログラムや、日本研究における現在のテーマを知る機会を提供することであった。プーラ大学では、このシンポジウムを基本に、ザグレブ、リュブリャナ、ベオグラード大学の先生方を国際交流基金の支援でお招きし、発表の概要集(Srdanović & Matsuno 2017)はオンラインで発表され、論文集は『Tabula』というプーラ大学ジャーナル論文を発行する予定になっている。

2018年9月6日に第2回目のプーラ大学日本学シンポジウム「新世代の日本語学習」(Japanese Language Learning for New Generations)が開催された。このシンポジウムは、日本語・日本文化学科の初代卒業生輩出を記念し、教育現場が直面している新たなニーズ、課題、取り組みについての意見や経験を集約することを目指していた。3名の先生方の基調講演、ヨーロッパや日本から44名の参加者、17件の研究発表が行われた。東京工業大学の名誉教授、仁科喜久子先生の基調講演のテーマは「科学技術日本語教授法のこれまでとこれから」で、理系と文系をつなぐ修士課程のプログラムの作成に非常に大事な内容である。東北大学の才田いずみ先生の基調講演は「雑談を用いた日本語学習」で、学生たちの日本語のコミュニケーション能力の上達に非常に重要なテーマとなっている。東北大学の佐藤勢喜子先生の「論文執筆方法」という基調講演は論文の指導に関係あり、必須となっている卒論の執筆にも大切テーマである。シンポジウムは6つのセッションに分けて、学生のモチベーション、コミュニケーションスキル、必要なリソース、日

本文化と社会、日本語学の方向などのテーマについて発表があった。夕方、筑波大学の名誉教授である砂川先生は、黒沢先生、根元先生と共に、次の日、9月7日・8日にプーラ大学で開催された「日本語教育連絡会議」の参加者もオンライン参加者対象としたコーパスワークショップ「日本語教育に役立つコーパスの使い方」が開催された。今回の概要集 (Srdanović & Matsuno 2018) はオンラインで発表されている。

続いて、「第 31 回日本語教育連絡会議」はプーラ大学で開催され、日本をはじめ、スロベニア、セルビア、ハンガリー、ドイツ、ベルギー、フランス、ラトビア、リトアニア、クロアチアから 46 名の参加があった。この学会は東欧を中心とするヨーロッパ各地で毎年開催されている。論文集はオンラインで日本語教育連絡会議のページに載せてある。

2018 年の秋には、本大学では三つの日本学と関連した学会が連続で開催された。三つ目は、9月17日にプーラ大学と筑波大学の交流協定締結を記念した「Tsukuba Day in Pula」として国際学会が行われた。筑波大学とプーラ大学の先生方と学生およびリュブリャーナ大学の先生方が自分の研究を紹介し、今後の交流についての話ができた。

3. 2 主な研究業績

主な研究業績として以下の三つを上げる。

2015 年にポローニャ大学で開催された「日本語学習リソースの構築」というワークショップの続きとして、日本語学習用の様々なリソースを紹介している “Digital resources for learning Japanese” (Motoko & Srdanović 2018) という書籍は 2018 年にポローニャ大学から出版された。

ベルファストで 2017 年 7 月 19 日に行われた IPrA 語用論学会の「キャラ」概念についてのパネルが京都大学の定延利之の研究プロジェクトの成果として発表され、その続きとして、『「キャラ」概念の広がりや深まりに向けて』というタイトルで書籍が出版された (定延 2018)。その中、コーパス分析の枠組みで「キャラ」の扱いに関する研究内容を紹介した (スルダノヴィッチ 2018)。「「キャラ」+【名詞】」「キャラクター」+【名詞】」のパターンを用いた「キャラ」と「キャラクター」の用法の共通点と差異は、図 1 に表示されている。「キャラクターデザイン」と「キャラデ」、「キャラクターメイキング」と「キャラメーク」を比べると、「キャラクター」の方が「キャラ」よりも公式な表現と見ることができる。「キャラ」だけが使われているコロケーションは、新興の大衆文化に関連し新たに作成された用語が特徴的であることがみられる。例えば、漫画・アニメなどのキャラクターに見えるように工夫されたお弁当のことである「キャラ弁」、アニメなどのキャラクターを採用したゲームのことである「キャラゲー」などがみられる。「キャラ弁」「キャラゲー」「キャラデ」は語形成の際に後部要素（「弁当」「ゲーム」「デザイン」）の語中音と語尾音が消失し、頭部（「ゲー」「デ」）だけになったものである。

リュブリャーナ大学で 2014 年に行われた EAJS の国際学会のコーパスワークショップに触発され、“The Japanese language from an empirical perspective” (Bekeš & Srdanović 印刷中) という書籍を編集するようになった。この本は、話し言葉と書き言葉の談話分析、コーパスを用いた談話変種・語彙分析、日本語教育に応用したコーパス研究、コーパスを用いたダイアクロニック研究、という 4 章から構成されている。

noun/noun	224,147	125,169	0.18	0.26
弁	4,552	0	8.1	--
立ち	2,038	0	7.8	--
ゲー	2,860	0	7.5	--
崩壊	3,460	0	7.4	--
アニ	1,099	0	7.0	--
デ	1,306	0	6.6	--
メーカー	3,446	181	7.3	3.3
設定	9,521	3,036	6.8	5.2
造形	661	731	6.0	6.6
ボイス	493	879	5.3	6.6
メーカー	387	644	5.5	6.9
グッズ	1,516	5,024	5.8	7.7
原案	584	1,798	6.2	8.5
デザイン	2,648	13,421	4.9	7.3
ソング	198	3,836	3.7	8.2

「キャラ」だけのコロケーション、または「キャラ」のコロケーションが多い

「キャラ」「キャラクター」ともによく見られるコロケーション

「キャラクター」のコロケーションが多い

図6 「キャラ」と「キャラクター」のよくある用法の共通点と差異
 (「キャラ+【名詞】」「キャラクター+【名詞】」のパターンの場合)

3. 3 日本語教科書の作成

クロアチアでは日本語学習に関心が高いにもかかわらず、クロアチア語の日本語教科書がなかった。そのため、ベオグラード大学の教授と交流しつつ、国際交流基金の支援を受け、セルビア語の日本語教科書をベースにして、クロアチアの学習者に合わせたクロアチア語版初級用日本語教科書「いっぽいっぽ」を作成した (Marković et al. 2018)。日本語教科書のセットは「本冊」と「かな入門」の2冊からなっている。「本冊」は「ウォーミングアップ」、10課、付録からなっており、各課は、目標、語彙リスト、前課の復習、マンガ形式での会話とその翻訳、様々な形式の練習、文法説明、日本文化紹介、テスト、ゲームと取り入れたアクティビティ (休憩) から構成されている。「かな入門」は楽しく学べるように編集され、新しい文字コーナー、文字の練習、イラストやクイズで構成され、ひらがな、カタカナの順で提示されている。東京工業大学名誉教授である仁科喜久子先生のレビューには教科書について以下のように講評をいただいている。

「全課を通してケンタとタマラという高校生、そして周辺の日本人とクロアチア人の登場人物がストーリーを構成しており、学習者には親しみやすい話題が取り上げられている。それと同時に、日本事情としての文化・歴史・風俗習慣の説明が織り込まれている。この話題は中学生・高校生にもわかりやすく、かつ大学生、社会人にとっても知的な興味をひく内容である。」

この教科書はクロアチア初のクロアチア語による日本語教科書であり、今後の日本語教育の発展に大きく寄与できると考えている。セルビア語教科書の原本のベオグラード大学の著者はもとより、プーラ大学の著者を含めた全スタッフ、日本からの日本語教育実習生、日本語学部生の全

員の力を合わせたチームワークとなり、それぞれの立場で学習する物も多く、非常に有意義なプロジェクトとなった。学生たちのプロジェクトへの関心の高さも見られ、学生の日本語レベルの向上および教材作成・評価の実習経験にもつながった。この教科書は、クロアチア語ができる日本語学習者の学習環境の向上、自律学習者の増加、全体的に学習者のすそ野を広げることが期待できる。

3. 4 辞書作成のプロジェクト

日本語学習の関心の高まりと伴って、二言語日本語学習者辞書などの学習者母語の言語リソースのニーズも高まっている。しかし、クロアチア語および密接に関連したセルビア語、ボスニア語の場合、辞書項目数に限りがあり、コロケーション、例文などの学習者に必要な情報がない初心者向けの簡単な辞書しかない。それで、プーラ大学の学部3年生の「辞書学入門」というコースで、学生達も作業に取り込んだ日本語・クロアチア語学習者オンライン辞書作成のプロジェクトを取り入れ、復習のパイロットプロジェクトを行った。例えば、学習者用一般日本語辞書の作成、クロアチア観光についての日本語専門ウェブコーパス作成、日本語・クロアチア語バイリンガル観光向け辞書の作成などである。現時点取り入れている辞書科目は、見出し語、読み方、品詞情報、クロアチア語の意味、例文・例文翻訳で構成されている。図1にクロアチアの観光に関する「プーラの円形劇場」という辞書科目が表示されている。

今後の課題として、既存のリソースを使用し、さらに辞書の内容を充実し、将来の学生と共にデータベースを発展することを計画している。



図1 クロアチア観光について日本語・クロアチア語オンライン辞書パイロットプロジェクト

4. 修士課程のプログラム

プーラ大学の3年間の日本語・日本文化学位プログラムはボローニャシステムに基づき、その自然な流れとしては、修士課程の2年を加える必要がある。学部を卒業した優秀な学生を更に育成する必要性があり、国内にない日本学の修士課程プログラムの設置が強く求められている。また、クロアチア初の日本語・日本文化にかかる高等教育機関ということもあり、国内の日本語教師の育成が急務であり、

中東欧地域の社会状況に適応した専門日本語研究家の育成も必須でもある。プーラ大学の教育大学としての伝統・特徴を生かし、高等教育および中等教育機関におけるの日本語教師の育成を目指し、修士課程のプログラムの中心として進め、並行して日本研究や国際交流発展のための通訳・翻訳者の育成にも努める。また、日本語教育・翻訳の発展に加え、急速に進歩している自然科学への対応も重要と考え、専門日本語として科学技術日本語教育を実施する。

現時点修士課程のプログラムの詳細を作成しており、2019年中申請、秋開設する予定である。プログラム2年間（4学期）で、120単位となっており、目的は、日本語・文化研究を通して研究・技術・経済の発展に貢献できる人材の育成を目指す。募集定数は15-20名程度で、卒業目標レベルはCEFR/C1以上になる。様々な人材の必要性を考慮に入れ、以下のモジュールから構成している。

- 日本語教育 — 日本語教育の普及・発展に貢献できる人材育成
- 観光日本語 — 異文化交流・観光産業の発展に貢献できる人材育成
- 翻訳（文学、専門） — 翻訳を通して文化の普及・交流等に貢献できる人材育成
- サイエンス — 日本との研究交流・技術移転等・企業誘致を推進する人材育成

5. まとめと今後の発展

本論文では、ユライ・ドブリラ大学プーラ人文学部アジア研究科日本語・日本文化学位プログラムの詳細を紹介した上、設立後の3年間の様々な活動について述べた。特に、大学間交流、学生達の主な成果、開かれた国際シンポジウム、教科書および辞書の作成などを紹介した。現時点大きなプライオリティとしては修士課程のプログラムの作成・申請・設立があげられている。今後の課題としては、他のアジア言語圏も含めたコースの設定（中国、韓国）、共同研究プロジェクトの参加・応募、学生を留学させるための交流の強化があげられる。

参考文献

定延 利之(編集) (2018) 『「キャラ」概念の広がりと深まりに向け』三省堂. ISBN-10: 4385349134, ISBN-13: 978-4385349138

Bekeš, Andrej & Irena Srdanović (eds.) (in print). *The Japanese language from an empirical perspective: corpus-based studies and studies on discourse*. Znanstvena založba Filozofske fakultete, Ljubljana.

Ueyama, Motoko, Srdanović, Irena (eds.) (2018) *Digital Resources for Learning Japanese*. Book Series Department of Interpreting and Translation (DIT) of the University of Bologna, Italy. Bononia University Press, Bologna.

Marković, Ljiljana, Divna Tričković, Irena Srdanović (2018) *Udžbenik japanskoga jezika Ippo Ippo: Glavna knjiga*. Pula: Sveučilište Jurja Dobrile u Puli. 286 pp. 2018. ISBN: 978-953-7320-93-5

Marković, Ljiljana, Divna Tričković, Irena Srdanović (2018) *Udžbenik japanskoga jezika Ippo Ippo: Uvod u pismo kana*. Pula: Sveučilište Jurja Dobrile u Puli. 187 pp. 2018. ISBN: 978-953-7320-94-2

Srdanović, Irena and Naoyuki Matsuno (eds.) (2018) *International Symposium on Japanese Language Learning for New Generations: Book of Abstracts* 国際シンポジウム「新世代の日本語学習」論文集. Pula: Juraj Dobrila University of Pula, 2018. 51 pp. ([e-book](#)) ISBN 978-953-7320-89-8

Srdanović, Irena and Matsuno, Naoyuki (eds.). (2017) *International Symposium on Japanese Language and Culture Education in Southeastern Europe: Book of Abstracts* (東南ヨーロッパにおける日本語・日本文化教育についての国際シンポジウム論文集). Pula: Juraj Dobrila University of Pula, 2017. – 58 pp. ([e-book](#)) ISBN 978-953-7320-42-3

Srdanović, Irena (2018) 日本語コーパスにおける「キャラ (クター)」 (The notion of *kyara(kuta)* as reflected in corpora). 『「キャラ」概念の広がりや深まりに向け』定延利之(編集). Tokyo: Sanseido. 46-61. ISBN-10: 4385349134, ISBN-13: 978-4385349138

インターネット情報

国際シンポジウム「新世代の日本語学習」 (International Symposium "Japanese Language Learning for New Generations")

<<https://ffpu.unipu.hr/japanese-language-learning-for-new-generations>> (12. 1. 2019.)

東南ヨーロッパにおける日本語・日本文化教育についての国際シンポジウム International Symposium: Japanese Language and Culture Education in Southeastern Europe

<https://www.unipu.hr/istrazivanje/konferencije_skupovi_simpoziji/2017/international_symposium_on_japanese_language_and_culture_education_in_southeastern_europe> (12. 1. 2019.)

プーラ大学の日本語学生たちクラブの FB ページ

<https://www.facebook.com/tsurupula/> (12. 1. 2019.)

プーラ大学日本語プログラムの FB ページ

<https://www.facebook.com/japanskijezik/> (12. 1. 2019.)

日本語教育連絡会議のオフィシャルホームページ

<http://renrakukaigi.kenkenpa.net/> (12. 1. 2019.)